

## 令和2年度特別養護老人ホームひだけ荘事業報告

### (1) 食事について

家庭的な雰囲気の中で美味しく・楽しく食べてもらう事を基本的な考えとして、個々の食事リズムと習慣を知ることから始め、起床時間も人それぞれであれば朝食時間も人それぞれである事から朝食時間を一定時間でなく朝7時から9時の間で目が覚めた時点で起床介助し食事を提供することでおいしく食べて頂く事の継続に努めました。食事回数に対しても個人の習慣や体調にあわせ看護師や栄養士と相談しながら対応し必要な栄養を摂って頂けるよう努めました。

食事摂取状態に関しては、自分で食べて頂く事を基本とし姿勢の確保・補助具の工夫・食事形態を個々の心身の状態に合わせて対応しながら経口摂取維持に努めました。

水分補給は、すすんで無理せず水分補給できるように色々な飲み物や果物を提供しながら、嚥下状態の悪い方に関してはトロミ剤の使用やゼリーでの対応で水分補給確保取り組んできました。

### (2) 排泄について

可能な限りトイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表を活用しながら個々の排泄パターンを把握し身体レベルに合わせた排泄介助を行うことで日中はトイレで排泄、夜間は個々に合わせた排泄アイテム使用でゆっくりと睡眠をとって頂けるよう努めました。

排便に関しては排泄委員会を中心に看護師・栄養科・リハビリと連携を取りながらできるだけ下剤に頼らず自然に排便ができるよう努めました、経管栄養の方の水様便が持続する事のないよう栄養剤の検討や寒天白湯注入・整腸剤の使用しながらできるだけ形のある排便になるよう工夫して行く事で皮膚トラブルの防止に努めてきました。

### (3) 入浴について

家庭的にゆっくりと入浴できる事を基本とし、個別浴槽でマンツーマン対応入浴すること、また看護師と連携をとり個々の心身状態に合わせた入浴ができるようプライバシーを守りながら安全に安楽に入浴して頂けるよう努めました。

入浴回数や入浴時間については個々の希望や皮膚状態応じて臨機応変に個別対応していく事で満足して頂ける入浴となるよう努めました。

#### (4) 入所者との関わりについて

一人ひとりを尊重し「今までの暮らし」が可能な限り継続出来るよう少人数単位での見守りを行いながら顔なじみの関係作りができお互いを気遣い助け合いながら過ごして頂けるよう努め、個々に合わせたケアを行い個別対応する事で一人ひとりが自立し当たり前の暮らしができるように入所者の立場に立ったケアをすることに努めました。

生活の場としてタオルたたみや清拭タオル巻きを日頃の日課として手伝って頂き自分の役割として感じてもらう事、季節事の外出や行事への参加、レクリエーション活動・バスハイクを行うことで変化のある生き生きした生活が送っていただけるよう努めました。

#### (5) 家族との関わりについて

個々の入所者の状態を面会時や電話やメール等でのこまめに報告行うことで、日頃の生活状況や体調について把握して頂けるよう努めました。

新型コロナウイルスの感染拡大の為、面会制限時にはタブレットを使用してのオンライン面会を行い、可能な限り面会できるように努めました。

ケアプラン作成時には家族の希望や意向を尊重したケアを行うことを基本とし、個別に面談や相談を行いながらケアプランを作成しそれに添ったケアが出来るよう努めました。

#### (6) 身体拘束廃止に向けた取り組みについて

入所者の安全確保を基本とし抑制ゼロを目標に多職種と相談しながら危険防止に努め見守りモニターの導入等の環境整備や他職種の協力等で見守り行いながら拘束廃止に努めました。又、毎月の身体拘束廃止員会、年2回の身体拘束廃止の施設内研修を行い、身体拘束廃止に努めました。転倒等のリスクの高い方に関してはヒヤリハット・事故報告書をもとにスタッフ会議や随時カンファレンスを開き検討し対応することで抑制せずに安全確保ができるよう努めながら安心して落ち着いた生活が送れるよう努力してきました。

#### (7) 感染対策について

新型コロナウイルス感染拡大により、施設事業所内の感染対策の徹底に努めました。入所者と職員の健康管理（検温、体調の確認）、日々の清掃と消毒などの環境整備、手指消毒や定期的な換気物資の確保（マスク、ガウン、手袋、消毒液）、感染発生時のシミュレーション、感染対策に係わる関係者の連絡先の確認、感染者発生に防止対策及び発生時の対応方針について関係機関、ご家族との情報共有を行いながら感染防止に努めました。

(8) ショートステイについて

ショートステイに関しては在宅介護との連携を意識した支援を行うことに努めました。在宅介護にて家族の介護負担軽減・介護者の不在・ADL訓練・在宅復帰の為の条件整備、災害時の避難（台風や大雨等）のニーズに合わせてショートステイの受け入れを行いました。

## 令和2年度医務事業報告

- ① 入所者の健診は年2回の採血検査を5月・11月に実施し、検査結果で異常の方は再検を行い土屋医師より治療方針の指示あり、内服治療をされました。年1回の胸部レントゲン検査では結核の方はおられませんでした。胸写で再検が必要な方は病院受診し再検査を行いました。年1回の心電図検査も軽度の異常を認められた方はいましたが、経過観察にて悪化等はありませんでした。
- ② 職員健診は年1回全職員10月に実施しました。異常値の方は再検、更に必要な方は病院受診を勧めています、各自かかりつけ病院等にて検査を行ってもらい、必要な方は治療をされました。特養スタッフ（夜勤者）はさらに年2回の採血と内科健診を行い食生活の指導、運動を進め体調管理に努めました。腰痛検査も年2回、特養スタッフ・医務・相談員に実施。必ず腰痛ベルトの着用を指導しました。
- ③ 月1回のスタッフ会議にて医療面や感染に関する勉強会を行い、スタッフにも知識を養ってもらうよう努めました。高齢者の心身の特徴や多くみられる症状についての勉強会も行い、症状による対処の仕方や急変時の対応等指導を行いました。月1回の全体での勉強会は、今年度は新型コロナ感染予防の為、全体での集まりを控えた為書面での勉強会となりました。書面ではありますが、緊急、急変時に対応に関する研修を行い、急変時の対処の仕方の再認識を行いました。
- ④ 今年度は新型コロナ感染対策の為 高齢者のインフルエンザ予防接種も重要であり、施設の方針に基づいてご家族承認の上ワクチン接種を実施しました。ご家族の理解もあり全員の方に実施できました。
- ⑤ 新型コロナ感染予防の為、面会者には手指消毒・マスク着用・来荘時の検温健康チェックを行い 面会コーナーでパーテーションを利用し短時間での面会に協力していただきました。感染拡大状況に応じ、外部よりの侵入を防ぐ為、必要時は面会を中止としました。  
LINE等のリモート面会も開始することができるようになり、ご利用頂きました。
- ⑥ 新型コロナ感染予防の為 職員の出勤時の手指消毒、マスク着用、検温体調管理を行いました。三密を避ける行動するように、県外への外出や会食での接触を避ける等、施設職員の自覚をもって行動するように指導を行いました。

## 令和2年度地域密着型特別養護老人ホーム

### ひだけ荘里山事業報告

平成26年4月1日ひだけ荘から独立し地域密着型となり以前通り本体と協力しながら入所者の方のケアに取り組んできました。

環境を整え、個々の生活リズムと習慣を知るために本人様や御家族の方から情報収集を行い24時間シート作成する事から始め、職員全員が入所者の生活リズムを把握しケアプランに沿って統一したケアが出来るよう努めました。

#### (1) 食事について

家庭的な雰囲気の中で美味しく・楽しく食べてもらえるようご飯はユニットで炊飯しご飯の炊ける臭いを感じてもらい、盛りつけもユニットで行う事でより家庭的な雰囲気の中で食事して頂けるよう努めました。食事回数や水分補給に対しても24時間シートを活用し看護師や栄養士と相談し色々な食材飲み物を準備し必要な栄養・水分補給ができるよう努めました。また、外庭で収穫した季節の物を取り入れて、自分で収穫する喜びや、季節感を感じて頂けるよう提供しました。体調不良の方にも、看護師、栄養士と相談し高カロリーの物等に対応をし栄養補給をして頂きました。また、新型コロナウイルス感染防止の為、密にならないよう席の配置をセッティングし食べて頂きました。食事前の手洗い・消毒の徹底も行いました。

#### (2) 排泄について

可能な限りトイレでの排泄を基本とし、24時間シートと排泄チェック表を活用しながら個々の排泄パターンを把握し身体レベルに合わせた排泄介助を行うことで日中はトイレで排泄しオムツ外しに努め、夜間は個々に合わせた排泄アイテム使用でゆっくりと睡眠をとって頂けるよう、また、夜間Pトイレ使用時は、安全・安心し使用できるよう努めました。

排便に関しては看護師・栄養科と連携を取りながらできるだけ下剤に頼らず自然に排便ができるよう努めました。

#### (3) 入浴について

家庭的な雰囲気です気持ち良く安全に入浴して頂けるよう環境を整え、入浴回数や入浴時間については個々の希望や皮膚状態に応じて臨機応変に個別対応していく事で満足して頂ける入浴となるよう努めました。また、体調不良時も医務と相談し、全身清拭・部分清拭等取り入れ、清潔を保ち気持ち良く過ごして頂け

るよう努めました。

#### (4) 入所者との関わりについて

24時間シートを活用し一人ひとりを尊重し「今までの暮らし」が可能な限り継続出来るよう努めながら、顔なじみの関係作りができお互いを気遣い助け合いながら過ごして頂けるよう努め、個々に合わせたケアを行い個別対応する事で一人ひとりが自立し当たり前の暮らしが営めるよう入所者の立場に立ったケアができるよう努めました。

本人様の気持ちに気づき思いに添ったケアが出来るよう本人様のできるところは自分でしてもらい、できないところを手伝いながら一緒に生活している家族のような存在に近づけるよう努めました。また、何でも話し合える人間関係を持てるように努めました。入所者同士の関係も会話の出来る環境づくりに努めました。また、コロナ対策の為、職員一人一人マスク着用していて、利用者の方にしっかり言葉が伝わりにくい時があるので、十分注意し解りやすく伝わる様に努めました。

#### (5) 家族との関わりについて

気兼ねなく面会に来て頂けるよう共同スペースや個室で家族の方にもゆっくり過ごして頂ける環境を整えることで日頃の暮らし方を直接感じていただけるよう努めました。面会時には個々の入所者の状態を報告し生活状況や体調について把握して頂けるよう努めました。

外出や外泊に対しても入所者・家族の希望を伺い相談・調整しながら実施することで関係を深めていき安心して生活して頂けるように努めました。ご家族の希望があれば、お部屋の環境作りもご家族自身で作って頂いたり致しました。インフルエンザの時期や、新型コロナウイルスの感染関係で面会制限が長期に続いている為、オンライン面会の導入や、窓越し面会の実施等行い、なかなか面会に来られられない御家族に対しては、電話で状態報告や生活状況等伝え安心して頂けるよう努めました。また、写真入りで状況を伝えたりしました。

#### (6) 看取りケアについて

ひだけ荘では看取りケアへの取り組みの必要性が高まり、また、ご家族からの要望も多くなったことから、平成16年より取り組むことになりました。里山でも現在看取りケアを行っています。

令和元年度6名の方を看取りケアでお見送り致しました。本人様・ご家族の意向に沿ったプランを立て、医師・看護師、24時間の連絡体制を確保し、また、

ご家族とも 24 時間連絡のとれる体制をとり、いざ症状が急変しても医師・看護師の指導のもと対応が出来るようになっていきます。住み慣れた場所で家族や、施設のスタッフ、友人たちに見守られて最後の貴重な時間を、安心して過ごして頂けるよう努めました。

#### (7) 身体拘束廃止に向けた取り組みについて

入所者の安全確保を基本とし抑制ゼロを目標に危険防止に努め環境整備し、見守りを行いながら拘束廃止に努めました。

不穏状態強く転倒等のリスクの高い方に関しては随時カンファレンスを開き検討し対応することで抑制せずに安全確保ができるよう努め安心して落ち着いた生活が送れるよう努力してきました。

#### (8) 新型コロナウイルス感染予防対策について

- 1) 利用者・職員、毎朝体温チェック（体調不良時は報告行い、病院受診する）
- 2) 手洗い・消毒を行う。（玄関・ユニット入口にて消毒を行う）
- 3) 1 日定時の換気を行う。（除湿も行う）
- 4) 利用者同士の食事時の席は、間隔を開け密にならないようにする。また、職員の昼食時は 1 テーブル 1 名とし、休憩は 1 人ずつ行う。
- 5) 職員公休時、人の多い場所、飲酒を含む食事会は避ける。
- 6) 職員同士の会話や会議時、マスク着用で密は避け距離を置く。

以上、徹底して行い、新型コロナウイルス感染予防に努めました。

## 令和2年度里山医務事業報告

- ① 入所者の健診は年2回の採血検査5月・11月に実施し、検査結果で異常の方は再検を行い土屋医師より治療の指示あり、内服治療をされました。年1回の胸部レントゲン検査では再検査必要な方はおられませんでした。年1回の心電図検査も軽度の異常は認められた方はいましたが、経過観察にて悪化等はありませんでした。
- ② 入所者の情報収集及び状態観察を行い、個々の状態把握を行いながら、安心して安全に日常生活が送って頂けるよう健康管理に努めました。状態に変化が認められた場合は、土屋医師・ひだけ荘本体と連携を取りながら、ご家族へ報告相談・意向確認しながら必要であれば病院受診を行い、異常の早期発見と早期治療に努めました。病院受診に対しては、ご本人やご家族の意向確認をし、希望時や状態に応じて嘱託医にこだわることなく入所前のかかりつけ医への継続受診に努めました。その後、受診結果を嘱託医へ報告し、情報共有を図りながら、かかりつけ医との連携に努めました。
- ③ 看取り介護の実施があり、スタッフへの指導・状態報告を随時行い、情報共有をしながら、ご本人の最期をご家族と共に迎えられるように、観察を行って来ました。
- ④ 月1回のスタッフ会議にて、疾患に関してや感染予防などの勉強会を行い、スタッフにも知識を養ってもらうよう努めました。
- ⑤ インフルエンザ感染防止については、施設の方針に基づいてご家族承認の上ワクチン接種を実施しました。ご家族の理解もあり全員の方に実施できました。
- ⑥ 今年度は新型コロナ感染に対する予防の為、面会制限を行いました。長期にわたる面会制限の為、ご家族様や入所者様にはご不便と苦痛を生じてしまいました。リモート面会など用いて、少しでもご本人の状態を見ていただく事で、苦痛や不安の軽減と入所者様の喜びとなるように努めました。コロナウイルス感染症予防対策として、ひだけ荘本体と同様に対策をとり感染防止に努めています。



- ⑦ 施設での新型コロナウイルス感染症発症を想定しての物品の準備や研修に参加し現状を認識し対応を検討準備 職員への勉強会を行い意識を高めるように取り組みました。施設内の消毒や換気に気をつけ各部署の徹底を指導しています。
- ⑧ 施設全体での口腔ケア委員会を定期的に行うことでの口腔ケアの必要性も職員だけでなく利用者の中にも関心がでてこられています。食前に行う、口腔マッサージ、食後の口腔ケアにて良い口腔内の環境を整えるように努めました。
- ⑨ 入所者の状態に応じて、必要時にご家族へ状況を報告相談しました。  
病院受診に関して、情報の提供や助言をし、嘱託医との連携を図り必要時には、スムーズな受診や入院が出来るように援助しました。
- ⑩ 入所者の急変時には適切な処置を行い、救急搬送を依頼し、情報の提供や付き添いを行い、病院での早急な処置が受けられるように援助しました。
- ⑪ 施設での看取りを希望された方は、看取りりケアを行いました。  
ご家族には、常に状況を説明し、コロナ感染予防の為の面会制限の中でも感染予防策を行い短い時間でも面会していただけるように配慮しました。

## 令和2年度年間行事報告（栄養科）

4月	水質検査 検便（以下毎月実施） 給食会議 第2木曜日（以下毎月実施） 誕生会中止 行事食提供4月21日 害虫 ねずみ駆除作業 感染及び衛生管理委員会（毎月1回）	10月	十五夜 10月1日 お饅頭 害虫 ねずみ駆除作業 誕生会中止 行事食提供 10月20日
5月	節句 誕生会（運動会）中止	11月	誕生会中止 行事食提供 11月25日
6月	誕生会中止 行事食提供 6月25日 衛生点検 害虫 ねずみ駆除作業	12月	クリスマス(誕生会)中止 行事食提供 12月24日 餅つき 12月27日 冬至 柚子風呂 南瓜煮物 12月22日 大晦日 そば 害虫 ねずみ駆除作業
7月	七夕 誕生会中止 行事食提供 7月24日	1月	お正月（おせち料理）元日 七草1月7日 鏡開き 1月11日 誕生会中止 行事食提供 1月22日 厨房内排水管清掃
8月	お盆 害虫 ねずみ駆除作業 誕生会中止 行事食提供 8月22日	2月	バレンタイン2月14日 節分豆まき2月3日 誕生会中止行事食提供 2月20日 害虫 ねずみ駆除作業
9月	敬老会(誕生会) 中止 行事食提供 9月14日 秋分の日(彼岸)おはぎ 9月21日 敬老の日 赤飯	3月	ひな祭り3月3日 春分の日(彼岸)おはぎ 誕生会中止 行事食提供 3月22日

常にケアスタッフや看護師等と連絡をとり、入所者の体調や身体機能に変化があつた場合は出来るだけ速やかに対応するようにしています。

誕生会時は、誕生月の方には本人様の食べたい物の希望をとり提供している。また誕生会のメニューについては、季節感や旬の物を取り入れ給食委員会にて決定しています。

サテライトおひさまでは、誕生日に本人様の好物を特別に提供しています。

今年度は、コロナ禍の影響で誕生会が中止となりましたので行事食を月1回提供しました。

# 令和2年度事業報告書

## デイサービスセンターひだけ荘

### 【送迎】

- 本人や家族の要望に応じた定刻送迎を行い、シートベルトの全席着用と安全運転を徹底し事故防止に努めた。天候不良や本人の体調によっては迎え時間が遅れる事もあり、その際は事前に自宅へ電話を入れ状況説明を行うと共に、本人または家族の了承を得るようにしている。定刻送迎が困難な方は2度迎え等で対応した。
- 自宅での生活状況や身体状況を把握する事で、異常の早期発見と早期介入が出来るよう努め、担当ケアマネージャーにも適宜報告を行い連携を図った（特に独居者）
- 玄関施錠や服薬持参の確認・安全な場所への誘導等は、担当者会議で事前に取り決めを行い対応している。また、家族や本人からの急な要望にも臨機応変に対応できるよう努めた。
- 家族と会話する時間を多く設ける事で、信頼関係の構築・介護ストレスの軽減に繋がるよう努めた（利用状況の報告・ニーズの把握・ケアに関する相談や要望等）
- 『明るい笑顔と元気な挨拶』『言葉使い』『身だしなみ』は常に心掛けている。
- 定期的に車輛点検を行い、整備不良の無いようにしている。

### 感染予防策

- 職員も利用者も自宅検温を義務化し、異常の早期発見と対応に努めた。自身での測定が困難な方に対しては、乗車前検温や家族へ協力を求める等で対応した。
- マスク着用の徹底（常時）
- 送迎車輛の換気（窓開け）と使用後の車内拭き上げ（毎日実施）
- 到着後の手指消毒と手洗いの徹底。
- 状況によっては利用者だけでなく、同居家族の体調確認も行った。

### 【活動】

- バイタル異常や心身に不調が見られた場合は安静を促し“気づき”や“変化”を互いに報告する事で異常の早期発見と対応に繋がるよう努めた（報・連・相の徹底）  
また、状況によっては主治医にも情報提供を行い、医療との連携を図った。
- 同年代との交流によりコミュニケーションの幅が広がるよう席の配置など考慮している（認知症・難聴・視力障害・言語障害や構音障害を抱えている方への対応）
- 年代によって趣味の幅が広がってきており、選択肢を増やすだけでなく適応性が求められる為、ケアとしての質やニーズとしての必要性を見極める必要がある。
- 学習療法や作業療法で取り組みした作品を家族へ渡す事で、どのような活動を行っているのかを把握して頂くだけでなく、本人の能力や機能がどの程度であるのかを理解して頂くきっかけに繋がった。

- ・定期慰問や施設行事・外出行事は、新型コロナウイルス緊急事態宣言等により全面中止とした。

### **感染予防策**

- ・利用者間の距離確保
- ・定時換気（時季によっては常時窓開け）
- ・各テーブルへのアクリル板設置
- ・活動前後の手洗い
- ・入所施設と通所のエリア区分
- ・使用箇所の環境消毒（毎日実施）
- ・利用者への意識付け（感染拡大予防や健康管理に関して）

### **【機能訓練】**

- ・筋力維持と生活機能の改善に繋がる根拠に基いた個別計画書を作成し、合意を得た上で訓練を実施している。全身の筋力維持・向上を図る事で、自宅での役割（出来る事）を持ち続けていけるよう支援している。
- ・転倒予防や筋力維持に関する意識が高まるよう、自宅に持ち帰れる訓練内容を実施し、口腔体操にも力を入れ摂食・嚥下機能の維持/改善に努めた。
- ・3ヶ月ごとに1回以上自宅訪問を行い（主に送迎時）自宅での生活状況を把握する事で、多職種共同によるアセスメントを行い個別機能訓練計画の見直し等を行っている。
- ・バーセルインデックスによる機能評価を用いり、個別機能訓練メニューへ活かす事で自立支援や重度化予防へ繋がるよう努めた。
- ・楽しみながら体を動かし筋力増強に繋がるよう、レクリエーション内容を工夫している。

### **感染予防策**

- ・利用者間の距離確保
- ・使用機器等の環境消毒（毎日実施）

### **【食事】**

- ・食事量の低下が見られた際には本人に合った食事形態や嗜好品を提供し、美味しく食べて頂ける工夫を行った。また、摂取量や月々の体重を把握する事で体調管理を行い、大幅な変化が見られた際には家族や担当ケアマネージャーにも報告し連携を図った。高齢者は水分摂取が少ない為（特に冬場）脱水や感染予防としてこまめな促しと摂取しやすい工夫を行っている（ストローやトロミ剤の使用/ゼリー提供等）

### **感染予防策**

- 各テーブルへのアクリル板設置
- 会話の自粛
- 職員は利用者と2m以上の間隔を空け見守りしながら食事を摂り、食介や介入を行う際にはマスク着用を徹底した。
- 食前の手洗いや口腔体操・食後の口腔ケアの工夫（飛沫感染を防ぐ嗽方法の指導等）
- テーブルの拭き上げ（食前後）

### **【入浴】**

- 体調に問題が無い限りは入浴してもらい、全身状態の確認を行っている（心疾患や呼吸器疾患を抱えている方は、事前にバイタル測定を行い体調管理を行っている）
- 安全に入浴して頂けるよう状態に応じた入浴手段を提供し、気持ち良くゆっくり入って頂ける環境作りを行った（入浴剤の使用・温度調整・個々の状態に応じた浴槽の使用・声掛け・歩行能力に応じた移動介助）
- 自分で出来る一連動作は過剰な手出しをせず、本人の能力を活かせるようにした。
- 人数が多い時や施設行事の際は、慌たしい環境にならないよう午前中にも入浴を行い、ゆっくり安心して入って頂けるよう努めた。
- 入浴時に皮膚状態を観察し、トラブル防止に努めた（早期発見と対応）

### **感染予防策**

- 会話の自粛
- 環境整備（換気/消毒）

### **【排泄】**

- 個々の排泄パターンと身体機能に合わせたトイレ誘導により失敗を防ぎ、心地良く過ごせるよう努めた（場合によっては入浴も行っている）
- 周囲の環境には十分に配慮し、自尊心を傷付けないよう心掛けている。
- 排便コントロールが必要な方は、連絡帳記入や家族報告により体調が把握できるよう対応した（色・量・形態・時間帯の確認）
- 排泄の失敗を防ぐ事で清潔保持と感染症の予防に努め、手順を追った声掛けにより一連動作が自立するよう努めた。

### **感染予防策**

- 排泄物や嘔吐物処理は標準予防策を実施
- 環境整備（換気・便座使用時の消毒→各トイレに消毒液を設置）

## 【その他】

- 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業（令和2年8月5日～8月15日、及び令和3年1月13日～1月14日まで）や利用自粛等で延べ人数が昨年を下回り、収束の見通しが立たず生活様式も大きく変わった事で、身体機能の面だけでなく不安感やストレスによる精神面への影響が著名に見られた。専門職として求められる点は、活動や行動が制限される事による生活不活発病の予防と心理的な面への関わりだと考えており、変化に気づき家庭や社会での役割を持ち続けていけるよう支援していきます。また、今後は感染症や災害時の対応にも更なる強化が求められる為、施設全体での訓練を踏まえ、落ち着いて対応していけるよう知識や技術の習得に努めていきます。

# 令和2年度事業所実施報告

デイサービスセンター太郎

令和2年4月、緊急事態宣言発令で外出も制限され、事業所でもバスハイクなどの外出行事を控えたり、ボランティアの受け入れ中止、これまで当たり前のように行ってきた季節行事も全てが中止となり、法人内での事業所間交流などもできなくなっていました。そこで活動内容を見直し、感染予防を図りつつ室内での活動に重きを置いてレクリエーションなどに力を入れ、職員手作りのゲームを増やすなどしてバリエーションを充実させてきました。

また、感染防止対策として、職員の健康観察を始めとし、利用者の検温、マスク着用の徹底、こまめな換気、業務終了後の施設内備品等の消毒を実施しています。

事業開始から15年余りが経過し、車両や設備関係等も経年劣化の影響から、修理や交換の回数も増えてきています。昨年10月には玄関ドアの故障で、自動ドアから引き戸へと変更を行いました。また、年に1回の配管洗浄や年2回の消防設備点検、その他の設備等のメンテナンスも定期的に行っています。

運営推進会議については、前年度同様にコロナウイルス感染防止の観点から、事業所内での会議は実施せず、事業内容の報告等を文書の形にして各役員の方々へ送付致しました。今回も、意見等の記入用紙と返信用の封筒を同封し、数名の方よりありがたいお返事を頂くことができました。

利用者の動向に於いては、前年度と比較しても平均介護度は〔2〕と変化は見られておらず、新規利用者が4件の増加、廃止が4件となっており増減はほぼみられませんでしたので、今後も利用者獲得に向け、事業内容を充実させ、選ばれる施設を目指していきたいと思っております。

## 令和2年度 ケアマネージセンターひだけ荘 事業報告

### 1. 介護支援専門員としての資質向上

- ・コロナ感染拡大のため本年度の研修は少なかった。今後はリモートによる研修も計画されているので積極的に参加するようにする。
- ・アセスメント時に課題総括表の活用を行うようにした。  
作成についての研修会に参加した。

### 2. 相談窓口としての立場の確立

- ・困難事例の相談があったとき本人や家族も含めたケアが必要で、そのお互いの立場に立って尊重した対応を行なった。  
又、コロナ感染防止のため自己の健康管理、手洗い、マスク着用行った。
- ・新規の相談時は速やかに訪問しサービスの調整など行った。  
担当者会議等は感染防止のため時間短縮の工夫行った。

### 3. 関係者との連携強化

- ・入院時は連携書類などを活用し情報の提供を行った。  
退院時などコロナ感染拡大で事前に面談ができずご家族からの情報少なく、病院の連携室からの書面や電話などで連携行った。
- ・地域ケア会議は今年度の参加は緊急事態宣言時だったので参加中止となった。



## 令和2年度地域密着型特別養護老人ホーム

### サテライトおひさま事業報告

環境を整え、個々の生活リズムと習慣に沿ったケアを行うため、本人様や御家族の方から情報収集を行い24時間シートを使用しながら職員全員が入所者の生活リズムを把握し統一したケアが出来るよう努めました。

#### (1) 食事について

家庭的な雰囲気の中で美味しく・楽しく食べてもらえるようご飯はユニットで炊飯しご飯の炊ける臭いを感じてもらい、盛りつけもユニットで行う事でより家庭的な雰囲気の中で食事して頂けるよう努めました。食欲の低下されている方に関してはユニットで好みのものを好みの味付けて作り少しでも食べて頂けるよう工夫したり、ご家族へ協力を依頼しご本人様の好物品を作って持ってきて頂きました。また、摂取量低下されている方には、高カロリーゼリーやメイバランス等での補食に努めました。食事回数や水分補給に対しても24時間シートを活用し看護師や栄養士と相談し色々な食材飲み物を準備し必要な栄養・水分補給ができるよう努めました。また、コロナ拡大の中、少しでも楽しみを持っていただけるようにテイクアウト等を取り入れました。

#### (2) 排泄について

可能な限りトイレでの排泄を基本とし、24時間シートと排泄チェック表を活用しながら個々の排泄パターンを把握し身体レベルに合わせた排泄介助を行うことで日中はトイレで排泄、夜間は個々に合わせた排泄アイテム使用しゆっくりと睡眠をとって頂けるよう努めました。

排便に関しては看護師・栄養科と連携を取りながら食物繊維の摂取や適度な運動、色々な物での水分補給に努め、できるだけ下剤に頼らず自然に排便ができるよう努めました。

#### (3) 入浴について

家庭的な雰囲気ですぐ安全に入浴して頂けるよう環境を整え、入浴回数や入浴時間については個々の希望や皮膚状態に応じて臨機応変に個別対応していく事で満足して頂ける入浴となるよう努めました。また、リフト導入にて、より安全で安心して入浴できるように努めました。

#### (4) 入所者との関わりについて

24時間シートを活用し一人ひとりを尊重し「今までの暮らし」が可能な限り継続出来るよう努めながら、顔なじみの関係作りができお互いを気遣い助け合いながら過ごして頂けるよう努め、個別対応する事で一人ひとりが自立し当たり前の暮らしが営めるよう入所者の立場に立ったケアができるよう努めました。本人様の気持ちに気づき思いに添ったケアが出来るよう本人様のできるところは自分でしてもらい、できないところを手伝いながら共に生活している家族のような存在に近づけるよう努めました。また、コロナ拡大に伴い、行事や面会の制限の中、ユニット内でのレク、オンライン面会等でストレスの軽減に努めました。

#### (5) 家族との関わりについて

気兼ねなく面会に来て頂けるよう共同スペースや個室で家族の方にもゆっくり過ごして頂ける環境を整えることで日頃の暮らし方を直接感じていただけるよう努めました。面会時には個々の入所者の状態報告を行う事で生活状況や体調について把握して頂けるよう努めました。また、多忙でなかなか面会に来られないご家族には、電話にてご本人様の状態報告を行いました。外出や外泊に対しても入所者・家族の希望を伺い相談・調整しながら実施することで関係を深めていき安心して生活して頂けるように努めました。また、コロナ拡大の中、面会の制限のため、オンライン面会の実施、定期的な状態報告の連絡を行い、安心していただけるよう努めました。

#### (6) 身体拘束廃止に向けた取り組みについて

入所者の安全確保を基本とし抑制ゼロを目標に危険防止に努め環境整備し、見守りを行いながら拘束廃止に努めました。不穏状態強く転倒等のリスクの高い方に関しては、ご家族へ面会をお願いしたり、随時カンファレンスを開き対応方法を検討することで、抑制せずに安全確保ができるよう努め安心して落ち着いた生活が送れるよう努力してきました。

## 医務事業報告

入所者の情報収集及び状態観察行い個々の把握行いながら、安心して安全に日

常生活を送って頂けるよう健康管理に努めました。

状態に変化が認められた場合は、土屋医師・ひだけ荘本体と連携を取りながら家族へ報告相談・意向確認しながら必要であれば病院受診おこない異常の早期発見と早期治療に努めました。

病院受診に対しては、本人や家族の意向確認し希望があれば嘱託医にこだわることなく入所前のかかりつけ医への受診継続に努めました。その後受診結果を嘱託医へ報告行い情報共有を図りながら、かかりつけ医との連携に努めました。インフルエンザ、コロナウイルスの流行に伴い、職員は毎日自宅での検温を行い荘内に置いてある表へ熱、体調を記入。看護師にて確認し、職員の健康状態の把握に努めました。

インフルエンザ、コロナウイルスの流行に伴い、37, 5℃以上の発熱がある場合状態に応じて数日間の自宅待機を行い、感染防止に努めました。

# 令和2年度グループホーム野の花事業報告書

## (1) 食事について

家庭的な雰囲気の中で美味しく、楽しく食べていただくことを基本的な考えとして提供してきました。又、朝食の好み（パン食・米食）・ご飯の硬さ・おかずの大きさ・牛乳やお茶の温度など、一人ひとりのこだわりやレベルに合わせて美味しく食べて頂けるよう努めました。食事摂取面では、個々の食事形態や補助具の工夫をしながら自力摂取ができるようにしました。認知症の進行に伴う嚥下機能の低下が著明な利用者様に対しては、食事摂取量の状態に応じて補助食の検討をご家族と共に考えながら対応しました。水分補給は、お茶を拒否される方に対しては 様々な飲み物や果物等で対応し、水分に対してムセがあられる方にはトロミ剤の使用やゼリー等で対応するなどして1日トータル1000mlを目標において水分確保に努めました。又、月に数回ホールにホットプレートやたこ焼き器など準備し利用者様と一緒におやつ作りを実施し、できたてのおやつと一緒に食べるなど、より一層家庭に近づけるよう取り組んできました。

## (2) 入浴について

自宅で入浴しているような状態を意識して利用者様と一緒に準備し、プライバシーを守ることに配慮しながら安全に入浴できるよう努めました。又、残存能力の維持向上のためにも、出来るところは本人にさせていただき残りを介助しました。入浴拒否のある方に対しては時間をずらしての声掛けや日を改めるなどして清潔保持に努めました。入浴中は皮膚チェックを行い異常の早期発見・対応ができるよう努めました。

入浴後は保湿クリーム、場合によってはワセリンなど用途に応じて全身に塗布し皮膚の保湿や皮膚トラブル防止に努めました。水虫など皮膚トラブルのある方に対しては、入浴以外の日にも足浴を行い軟膏を塗布し改善に努めました。

## (3) 排泄について

声掛けや介助には羞恥心への配慮を心掛けながら、尿意の無い方に対しては毎日の排泄パターンを把握し、個々のタイミングに合った誘導を行いました。又、排泄チェック表を活用し個々の排便コントロールを行うことで毎日を気持ち良く過ごせるよう努めました。夜間は、歩行が不安定な方に対して、Pトイレを設置し安全に自立で排泄ができるようにしました。排便の色や形状に注意を払い異常の早期対応に努めました。又、尿閉によりバルーンカテーテルを留置された利用者様に対して、尿の量や性状の観察、尿路感染予防の為に毎日の陰部洗浄や水分の促しを行いました。

#### (4) 健康管理について

日常の状態を主治医に報告し指示を受けながら健康管理に努めました。又、毎日バイタルサインチェックを行い、異常時は看護師も、ご家族と一緒に付き添い病院受診を行い医師に状態報告を行いました。又、気温の変化などで体調を崩さないよう空調管理に気を配り毎日快適な温度で過ごせるよう配慮しました。新型コロナウイルス感染防止対策として、職員も毎朝 体温測定を行い、マスク・うがい・手洗いを徹底し、こまめな換気を行うなどして感染防止に努めてまいりました。

#### (5) リハビリについて

毎朝リハビリ体操に参加してもらい身体の維持向上に努めました。歩行ができる利用者様に対しては、荘内の歩行運動を実施しました。下肢の浮腫改善や疲労回復ができるようメドマーを取り入れ毎日実施しました。生活リハビリの一環として、洗濯物を干したり、たたんだり、清拭巻きなど出来ることを促しました。又、出来る方には計算ドリルなどの学習活動も実施しました。

#### (6) 入所者とのかかわりについて

利用者様一人ひとりの思いや、もののとらえ方、考え方、性格をよく知り、その人の意志を尊重したケアを心掛け「その人らしい生活」が継続できるよう努めました。又、生活の場として洗濯物を干したり、たたんだり、清拭タオル巻きなどを日頃の日課として手伝っていただくことで自然に自分の役割と感じて頂くことができるよう努めました。

常に利用者様の横で、共に時間を過ごし、寄り添うことを大切にする事でホームの温かさを醸しだし安心へとつながるよう取り組みました。

アクティビティに関しては、コロナウイルス感染予防の為、外出活動や3事業所合同での催し物が制限され乏しい活動となりましたが、ベランダでのお茶会や、毎月の制作、料理教室、野の花だけでの季節行事など出来る事を実施し変化のある生活をおくっていただけるよう努めました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、面会制限が長く続く中、利用者様の心情を察しお一人お一人の表情や行動に注意をかたむけ、変化が見受けられる方に対してはご家族にその都度連絡し、窓越しでの面会・電話を使っての会話を行いました。

#### (7) 家族、地域との連携

利用者様一人ひとりの状態を職員全員が把握し、家族の面会時や電話等でこまめに報告を行うことで日頃の生活状況や体調について、ご家族も把握できるよう努めました。食事が全く入らなくなった利用者様について、ご家族とご本人様に今後どうしたいのか

意思を確認し、確認がとれた時点で食事形態の工夫・補助食の追加・担当Drへの報告、相談、指示を受けながら約2ヶ月で食事が元通りに入るようになり、ご家族と共に喜びを分かち合うこともありました。又、新しく入られた利用者様で落ち着かれず不穏行動が度々見受けられる利用者様に対して、ご家族と蜜に連絡をとり状況を伝え、必要に応じて、病院受診の検討や、電話での対応・窓越しの面会を依頼するなどご家族と一緒に考えてきました。

コロナウイルス感染拡大防止の為、運営推進会議は書面での報告が主になりましたが、野の花通信での写真をもとに日頃の活動や利用者様の状態など伝えてまいりました。又小野部田地区の方々にも、野の花通信を回覧板で回してもらい、野の花の活動を地域の方々にも知っていただきました。